

後輩たちへのエール！ その25

2020年5月18日

経験することの大切さ

◇今回は、西尾麻耶さん（和歌山大学観光学部）のエールです！

◎はじめに

こんにちは。2018年度卒業生の西尾麻耶です。私は現在和歌山大学観光学部に所属をしています。今年度から大学生活も2年目となり、更に充実した大学生活を送ろうとしていました。しかし、新型コロナウイルスの影響で大学の始業日が延期となり、更にオンラインでの授業に困惑をしている状況です。皆さんも現在学校に行けないという状況に不安を抱えているのではないのでしょうか？ 進路に対しての不安を抱えている方もいると思います。私はこの今の状況が、皆さんにとって進路について改めて考え直す良い機会だと思っています。これから述べる自身の体験が少しでも皆さんの進路選択に役立てば嬉しいです。

◎高校時代

私は、高校時代吹奏楽部に所属をしていました。日々の勉強に加え毎日の練習は、正直大変でしたが周りの仲間に支えられ大好きな吹奏楽と最後まで向き合うことができました。また、引退後も先生方に恵まれ、自分が大学で本当に学びたいことについて本気で考える大切さに気付き、自分の納得がいく進路選択を行うことができました。現在進路について明確に確定している人もいれば、そうでない人もいると思います。どちらにしても何事にも本気で取り組むことを忘れず、日々の生活を送ってみてください。

◎大学生活

私は現在、観光学部で多方面から観光について学んでいます。今回は主に二つの取り組みについて紹介をしたいと思います。

1つ目はLIP（地域インターンシップ）についてです。LIPとは、観光学部ならではの活動です。和歌山県を中心とした市町村と協力をし、地域が抱える課題を学生が調査を行い地域の人々と共に解決方法を考え実践を行う活動のことです。私は、和歌山県紀の川市と協働スイーツの開発を行っています。紀の川市はフルーツ王



写真1：紀の川LIPのメンバーとの様子

国として知られています。この地域のフルーツを活かした地域活性化を目指し日々活動を行っています。昨年度は地元のお店と協働して2つのスイーツを開発しました。ただスイーツを開発するのではなく、事例調査やデータに基づいて商品開発を行うので商品売るうえでの大切さを学びながらマーケティング活動を行うことができます。地域と深く関わりながら活動できることは、やはり観光学部の大きな特徴だと思います。この活動は、私が高校時代SGHで課題解決型研究や実際に現地に行き体験をすることで身に付けた力が生かされ、更に強化することへとつながっています。SGHでの様々な活動は、高校だけでなくその後の活動にも大きく影響があると私は思います。ぜひ、今までのSGH活動に自信を持ち、新しく始まるFRH活動にもやりがいを持ちながら活動を行ってください。

2つ目は、タイ・プログラムについてです。私は、今年の2月に13日間タイへ渡航をしていました。新型コロナウイルスの影響で渡航が心配されましたが、無事すべての活動を行うことができました。これは渡航の約半年前から活動が始まり、渡航が終わった現在も活動を行い、計1年間行われるものです。このプログラムは、異文化を体験・行動する学習プログラムで、私は世界の中に身を置き、自分自身を見つめ直し、他者を理解しながら協働する力を身に付けるために参加をしました。タイの首都であるバンコクや地方都市であるチェンマイを訪れ、観光だけでなく学校を訪問し自分たちで1から考えた活動を行い、また日系企業訪問、ホームステイなど様々な活動を通して大きく成長をすることができました。初めて訪れる場所で活動することは決して容易ではなく、多くの困難を乗り越えてきました。しかし、この経験があるからこそ学ぶことができたことが数多くあります。このプログラムに参加をしたいと思い、その思いを行動に移せたことは私にとって大きな一歩となりました。ぜひ、皆さんも行動に移すことの大切さを実際に体験して感じてみてください。



写真2：チェンマイの学生との交流時の様子



写真3：Wat Phra That Doi Suthep での様子

◎さいごに

私は今このような状況だからこそ出来ることを探し、行動に移すことを心掛けています。皆さんもこの時間を活かして自分自身の進路や今後やりたいことなどについて考えてみてください。最後まで読んでくださり本当にありがとうございました。